

## 事故事例に学ぶ

12

### バック時の事故



配送先の駐車場からバックで出ようとしたトラックが  
後方を通過しようとした自転車と衝突

#### 事故の概要

##### 発生状況

日 時：平成13年4月某日午後3時15分頃  
天 候：晴れ  
発生場所：川崎市川崎区内

##### 道路状況

幅員5.5mのアスファルト舗装、一方通行の直線道路で、道路両側には商店・住宅が混在。進行方向の左側にコンビニエンスストアがあり、道路に面した部分が駐車場になっている。

##### 事故の当事者

運転者A（2トントラック）：24才、男性  
被害者B（自転車）：35才、女性

##### 被害状況

A：物損...後部ドア損傷  
B：人身...右腕擦過傷、右足大腿部打撲（全治2週間）  
物損...自転車前輪、ハンドル破損

#### 事故状況

Aは、高校を卒業した後普通免許を取得して、地元のトラック運送会社に就職した。入社してから半年間の添乗指導、安全教育を経て、食品の路線便ドライバーとして働いていた。

Aが事故を起こしたのは、当日、最後の配送先から帰社するときであった。

この日Aは、午前7時に入社し、コンビニエンスストアの配送センターで、作業員が仕分してくれた食品を積み込み、運行指示伝票と照合し、川崎市内の各配送先に向かった。

当日は晴天で交通渋滞もなく、いつもより納品が順調に進み、「これなら今日は早くあがれて友達と遊べる」と思いながら残りの一店舗に向けて車を走らせた。

最後の配送先となったコンビニエンスストアは、私鉄駅前の商店・住宅の混在した一方通行路沿い。道路に面した部分が駐車場でその奥が店舗となっており、駐車場の両側はブロック塀で囲まれていた。

Aは、このコンビニエンスストアに荷物を搬入するときは、いつも一方通行路からバックで駐車し搬入していたが、その日は買物客の歩行者や自転車が混雑しており、店舗前の駐車場は自転車で一杯になっていた。

Aは自車が入るスペースを作るため、車から降りて自転車を寄せはじめたが、後続車のクラクションが聞こえたため、結局、前進で駐車場に入れてしまった。

納品を終えたAは、「今日はこれであがりだ。やれやれ」と思いながらバックで駐車場から道路に出ようとした時、ブロック塀越しに1台の乗用車が接近してくるのを確認した。

Aは運転席からサイドミラーで乗用車が通過するのを確認した後、バックギヤー（バックブザーの警報付）を入れ、アクセルを踏み左にハンドルを切りながらバックを始めた。

車体の後部が道路に出たその時、自車後方でゴツンと鈍い音がした。とっさにブレーキを踏んで降りて見ると、自車後方に主婦が自転車と一緒に転倒していた。

#### 事故の原因

Aが事故を起こしたコンビニエンスストアの駐車場は、両側がブロック塀で囲まれ見通しが悪く、道路全体が見えない場所でした。

このような場所をはじめとする、いわゆる道路外からの出入車は、道路交通法25条の2では、「歩行者又は他の車両等の正常な交通を妨害するおそれがあるときは、道路外の施設若しくは場所に出入りするための道路の横断や転回又は後退をしてはならない」と定められています。

Aは、自転車に乗った主婦が自車の後方を通行するとき、それを妨害するような形でバックをしてしまいました。すなわち、上記「道交法」に反するわけです。

また、事故当日配送が順調に終わったことからホッと気を緩めてしまったのに加え、バックブザーが鳴っていることで安全が確保されているものと安易に考え、後方の安全確認（安全運転義務）を怠ったことも原因と考えられます。

#### 事故防止策と安全指導

トラックによるバック事故は、工場の敷地内や事業所の駐車場、路外施設から道路に出るときに多数発生しています。

トラックは乗用車とは比較にならないほど後方の死角が大きく、それだけに危険を伴うのが特性です。この危険な特性をしっかりと自覚するとともに、バックの際は次のような注意を必要とします。

- 事前に車の周りや床下を確かめることを習慣づけ、安全を確保してからバックを始める。
- 後方の安全確認はバックミラーだけに頼らず必ず目視で行う。
- 目視できない部分の安全確認は、同乗者、関係者等に誘導を依頼する。
- 周囲にいる人や車に気づかせるため、バックブザーは3回以上鳴らしてから車を動かし始める。
- 人の歩く程度のスピードでバックし、少しでも不安を感じたらすぐ停止、確認する。

事例のように道路外から道路に出るとき、特にバック時には、車道の車の流れに注意を奪われ、歩道等の歩行者や自転車を見落としがちになります。目視での確認はもちろんのこと、誘導依頼やバックブザー等を利用し、安全確保をおこなってから車を動かすことを職場で徹底してください。